

大人が楽しむ科学教室2026

千葉市 科学フェスタ
これからの私たち
2026

/// 2026年4月のプログラム //////////////////////////////////////

認知科学シリーズ

4/4 脳が生み出す「色の世界」を見えない色から読み解く

13:30~15:00 講師 木村 英司 (きむら えいじ) | 千葉大学大学院 人文科学研究院 行動科学研究部門・心理学講座 教授

私たちは、赤、緑、青、紫など、さまざまな色を見ることができます。では、赤緑色を見たことはありますか？紫色（赤青色）や青緑色は見えても、赤緑色は想像すらできないと思います。色の感覚は、特定の色どうしが対立しあう「反対色性」という仕組みに基づいているので、赤緑色を体験することはできません。本講座では、この反対色性を中心に、脳がどのように光を解釈して「色の世界」をつくり出しているのか、その仕組みを紹介します。（赤緑以外の見えない色も探してみてください。）



身近な科学シリーズ

4/11 タコ類稚仔の対捕食者戦略： 食べられないための驚きの行動

13:30~15:00 講師 團 重樹 (だん しげき) | 東京海洋大学 学術研究院 海洋生物資源学部門 増殖生態学研究室 教授

タコ類は、カモフラージュや擬態、スミ吐きなどの特徴的な能力を使って、大型の魚類などの捕食者から身を守っています。タコ類はこのような高度な能力をどのように発達させ、身に付けているのでしょうか？本講座では、マダコの赤ちゃん（浮遊幼生）やイイダコの稚ダコが見せる驚きの対捕食者戦略（食べられないための行動）について、実際の映像を交えて紹介します。



地球・防災シリーズ

4/18 高潮災害を知って、タイムラインで守る

10:30~12:00 講師 松尾 一郎 (まつお いちろう) | 一般社団法人 タイムライン防災推進機構 機構長・最高技術顧問
NPO CeMI 環境・防災研究所 副所長

高潮災害は、多くは台風を起因として発生します。千葉市にとって、影響の大きいのは津波より高潮にあると筆者は指摘します。その意味で70年近く、都市が浸水するような高潮災害の経験のない我が国にとって、①高潮とは？②千葉への影響は？③どうタイムライン防災で守るのか、などを参加者のみなさんと共有をはかりたいと考えております。



身近な科学シリーズ

4/19 高レベル放射性廃棄物地層処分の安全評価研究、 特にガラス固化体を中心に

10:30~12:00 講師 大窪 貴洋 (おおくぼ たかひろ) | 千葉大学大学院 工学研究院 共生応用化学コース 准教授

原子力発電所から発生する高レベル放射性廃棄物は、再処理工程を経て熔融ガラスで固化され、ガラス固化体として地層中に埋設されます。地層処分の安全性を評価するため、処分場環境におけるガラス固化体の化学的安定性について、各国で精力的な研究が行われています。特に、1万年以上にわたりガラス表面で起こる化学反応を、スーパーコンピュータや先進的な分析手法・理論を用いて予測する研究が近年大きく進展しています。本講座では、高レベル放射性廃棄物の地層処分の安全評価研究の現状とその考え方について、最新の知見も交えながら紹介します。



身近な科学シリーズ

5/9 生き物と人々との関わり—虫はおいしい！

10:30~12:00 講師 野中 健一 (のなか けんいち) | 立教大学大学院 文学研究科 超域文化学専攻 / 立教大学 文学部 史学科 超域文化学専修 教授



私たちの身の回りにはさまざまな生き物をみかけることができます。これらは日本でもさらに世界に目を向ければ、実に多様な関わり合いがあります。とくに食文化には、好悪も相まって、個人差のみならず地域差や民族集団による違いがあります。食べるだけでなく、自然を深く見る目、捕まえたり、おいしく料理したりと技も作られてきました。トリ・ムシ・サカナなど身近な自然を人との関わりからとらえて、自然や生き物の多様な世界、人の文化を地理学の視点で探求してみましょう。

地球・防災シリーズ

5/16 小惑星のプレバイオティック化学工場

13:30~15:00 講師 癸生川 陽子 (けぶかわ ようこ) | 東京科学大学 理学院 地球惑星科学系 准教授



炭素質隕石や小惑星リュウグウ・ベンヌからアミノ酸などの有機物が見つかり、生命の材料が宇宙から地球にもたらされた可能性が注目されています。隕石のもととなった小天体では、氷がとけて水が生まれ、その中でさまざまな化学反応が起きたと考えられます。本講座では、その環境を再現した実験や、小惑星リュウグウから持ち帰られた試料の分析結果を紹介し、宇宙で有機物がどのように作られたのか、生命の起源にどのような意味をもつのかを紹介します。

身近な科学シリーズ

5/23 光と電子の旅

13:30~15:00 講師 江馬 一弘 (えま かずひろ) | 上智大学 理工学部 機能創造理工学科 教授



人間も地球も、原子・分子からできています。そして、すべての生命活動は原子・分子の組み換えであって、その過程で中心的な働きをしているのは光と電子です。また、原子力以外のエネルギーは、源流をたどると、すべて太陽光のエネルギー、すなわち光から得られています。本講座では、光と電子がどのような形で我々の世界を構成しているのか、そして地球上のすべての活動は光と電子のおかげであることを講義します。光と電子の旅を通して、宇宙・地球・生命・エネルギー・環境などを広い視点から捉えていきたいと考えています。

身近な科学シリーズ

5/30 電子顕微鏡で探るものづくり —カーボンナノチューブのミクロな世界と宇宙応用—

10:30~12:00 講師 平原 佳織 (ひらはら かおり) | 千葉大学大学院 工学研究院 物質科学コース 教授



ナノメートル (1000 万分の 1 cm) レベルの微細な世界を観察できる電子顕微鏡を駆使し、物質の構造とその性質を原子レベルで計測・解析することは、材料の新たな機能を開拓する鍵となります。本講座では、カーボンナノチューブというナノスケールの微細繊維を対象に、その構造特性を解明し、次世代のものづくりへと繋げていく基礎研究について、ナノサイズの筒の中に分子や金属を閉じ込める実験や、ヤモリの足を模した「ヤモリテープ」の宇宙物質探査への展開などを紹介し、ミクロな探究が拓く新たな可能性を解説します。

申込方法

申込フォーム

2次元コードまたは下記URLからアクセスし、講座詳細ページから申込フォームへお進みください。

<https://www.kagakukanq.com/otonagatanoshimu>

※フォーム送信後、受付完了のメールがGoogleから自動配信されます。参加確定メールではありません。

往復はがき

※はがき1枚につき1講座1名のみご応募ください。

往信面裏側に応募講座名・申込者氏名・住所・電話番号をご記入ください。

宛先 ▶▶ 〒260-0013 千葉市中央区中央4-5-1 きぼーる7階 千葉市科学館「大人が楽しむ科学教室」係

※応募者多数の場合は抽選となります。申込フォームでご応募の方は締切後に当選者のみメールでお知らせします。はがきでご応募の方は返信はがきをご確認ください。

※同一講座に複数回お申込されても1回のお申込として扱います。(申込フォーム・はがき共通)

※講座開始後のご入場や途中退出はできません。時間に余裕をもってお越しください。

※当日残席がある場合は、開始15分前より会場にて受付を行います(先着順)。



会場 10階 探究実験室

対象 高校生以上(テーマに関心のある小中学生の参加可)

定員 各回30名

料金 要常設展示入館料(裏面参照)

申込締切 4月講座…3月10日(火) 必着

5月講座…4月10日(金) 必着